



各地通信

光榮ある新覽橋
國母陛下御通初

觀月と源氏物語によりて名高き石山寺(江ノ)より新名所としてまた京都大阪兩府の被害豫防の重大責務を負ふべき彼の洗堰に至る勢多の清流に架せられたる本橋は滋賀縣官民一致の努力により僅かに數日間(起工十三日)に竣成し、大正十一年十一月十一日午前十一時といふに 畏くも國母陛下の行啓せらるゝありて初めて開通てふ好記念の新橋に御座候

追て橋畔の新緑加はるを待ち二三葉撮影致し可供貴覽候敬具 (滋賀の舊都にて 山櫻生)

道路費蓄成の爲 滋賀縣阪田郡大原村朝日村外諸事簡約の美譽 附近の居住者は地勢の關係上交通不便を感じる事茲に幾年なるを知らず候、依て幾度か協議を重ねたる結果觀音山に隧道を穿ち中

但此場合ニ於テハ出資セザルコトヲ得 第六條 第二條第四條第五條ニ定ムル場合ト雖モ重要ナル緣者ガ専ラ參詣參拜ヲ目的トスルモノハ此限りニアラズ。

第七條 婚姻儀式ノ際ハ部屋見舞ノ配付ヲ停止シ親族ヨリ祝賀ヲ受ケタルモノ及ビ嫁入持參ノ荷物一荷ニ對シ糯米五升又ハ之レニ相當スル金品ヲ出資蓄積スルモノトス。

但兩掛一荷マデノモノニ對シテハ糯米三升ニ減ズルコトヲ得。

第八條 養子縁組ノ際ハ荷物ノ多少ニ拘ラズ左ノ等級ニ應ジ出資スルモノトス。

- 壹 等 貳 等 參 等 四 等 五 等
- 糯米二斗 同一斗五升 同一斗 同五升 同三升

第九條 出產ノ場合ハ腸餅配リヲ見合セ左ノ等級ニ依リ出資蓄積スルモノトス。

- 壹 等 二等及三等 四等及五等
- 糯米七升 糯米五升 糯米三升

第十條 各條ノ出金ニ對シテハ其庄司神事行當番收金保管ノ責ニ任ズ(以下略)

各地通信

仙道に通ずるを其最も捷徑なりとし之れが資金造蓄の爲め左記組合規約を作り既に實行致居候幸に御記載を得ば幸甚に奉存候(伊吹山麓にて 武田圭三)

勤儉貯蓄組合規約

- 第一條 本組合ハ隣保ノ交通便利ヲ圖ランガ爲メ觀音阪隧道開鑿ノ資金ヲ貯蓄シ其ノ實現ヲ期スルヲ以テ目的トス。
- 第二條 本組合ハ第一條ノ目的ヲ達成センガ爲メ左ノ規約ヲ定ム。
- 第三條 春秋ノ氏神祭禮ニハ華ヲ去リ招客奢侈ヲ止メ酒宴ノ失費ヲ戒メ左記等級ニ依リ春秋二季ニ出資蓄積スルモノトス。
- 壹等 貳等 參等 四等 五等
- 五圓 四圓 參圓 貳圓 壹圓
- 第四條 祖師ノ御取越ハ毎年一回執行ノ定メトシ専ラ勤行參詣ヲ旨トシ他ヨリ衆ヲ招キ膳立ノ美ヲ盡シ又ハ華足配リ等ハ之ヲ廢シ其費用ハ之ヲ節約シテ一等三圓 二等二圓 三等一圓 四等五十錢 五等二十錢宛ヲ出資スベシ。
- 第五條 一般法要(葬式忌上ヲ除ク)ヲ執行スル場合ハ前條ノ旨ヲ體シテ諸事實實ヲ守ルベキコト

卅億弗を投じ米國の築道大計畫

冠省、今回米國政府は十五年新に十八萬哩の道路を築造せんとする大計畫を發表致候これにつき紐育トリビニオン紙の如きは之を以て經濟上最も有利なる國費の使用法なりと評論致候本計畫に於て特に注目すべきは一般目的と共に國防上の要求を骨幹となし居れる點にして參謀本部立案の下に外國の侵襲を豫期する海岸及び國境に沿ふ緊要なる地域中には軍事上重要地點及び後方に於ける貯藏地、生産地並に工業中心地を以て連絡的補給線を形成し更に該作戰地域の内部に於ける主要中心地點とを連絡する大交通網を建設せんとするもの候本計畫は中央道路局の同意を得て各州道路局に移牒せられ各州の道路計畫の基準となり中央政府の補助と共に漸次實行せらるべく尙中央道路局長は昨年會議會に提出せし年報に於て一九二二年度に於ける米國の道路工事の成績を左の如く發表致候。

- 一、建造完了 一七、七一〇哩
- 一、工程約半部完了 一七、九七八哩
- 一、建造計畫完了 七、四六九哩

一、中央政府より各州に對する道路補助金

一九四、五六〇、一三五弗

一、右の内中央政府より拂濟の分

一六六、九一一、五五二弗

尙詳細に就ては追々後便にて御報可申上候

(紐育に於て：MS生)

**道路修繕工事中
古代の寶物發掘**

福島縣安積郡穗積村字野田より岩瀬郡仁井田村館ヶ岡に通ずる道路修繕中安積、岩瀬の郡境館ヶ岡地内に古老より近づく可からずと言ひ傳へられたる洞穴有之候然るに今回道路工事の爲め其洞穴切取りをなしたるに數間の奥より古刀、石器、白骨、土器其他貴重な参考品を發掘致し工事關係の土工等は警官立會にて尙奥深く發掘に努め居候が發掘されたるものは何れも二千年以上を經過せるもの、如くに候委細御面晤に譲り如斯御座候(白河の關にて：西行生報)

**御會之宣布到徹
道路改修益有望**

小生は伊豆の一隅に居を構ふる事十餘年而して惡路の爲め泣きたること數知れず候 位置が縣の西南端に位する爲めか從來殆ど繼子扱ひにされ居候處御會の趣旨

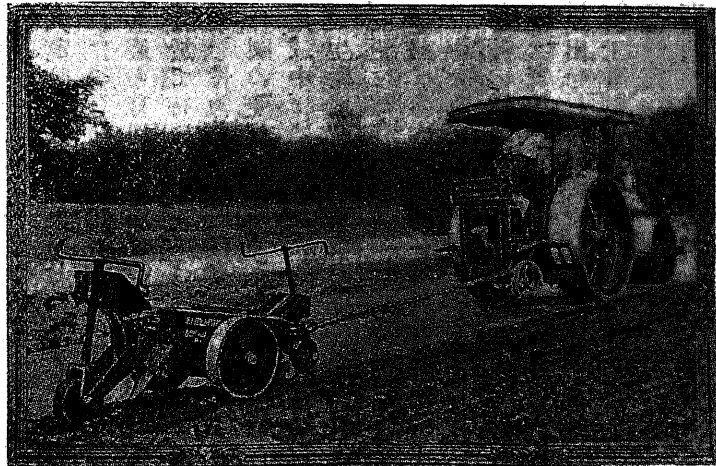
宣布に加ふるに箱根三島線改修工事着手等に連れ熱海道、眞鶴道、御殿場道及これより分岐する各町村道の如きも夫れ々々當局及關係者の間に改修築の必要を認められ大正十二年度我が足柄下郡各町村に補助する額は前年度より頗る増加し居候三宅土木出張所主任は早川、四十八瀬川、狩川、内川等の出水危険地より工を起して先づ其の豫防工事と道路改修の豫備的準備を整へ出水期後直ちに道路の大改修に着手する手配完く成りたる由申居候又當地方温泉旅館に於ても夫れ々々自動車の用意をなし本年は多數浴客の便利を圖らんと寄り々協議致し居候希くば英雄の閑日月を御利用此地方に於ける交通状態御視察願上度希望不堪候(伊豆にて：賴朝報)

**交叉點に標示器
南北專行の試験**

大阪府保安課にては交通整理に關し各警察署長よりの報告に基き鋭意研究を續け居候が今回北濱より惠美須町に至る路線に於ては緩行車馬の通行を禁止する事とし府告示を以て發表致候但し時間は午前七時より午後八時に至る最も交通の繁き間と定め其前後に於ては自由の通行を認め居候併し同課に於ては此の通行

スーヤイワフリカス

用使(間濱京)府京東



機土機式力壓るす起掘を面路 前すなをし均地

圖の用使引牽りよにーラーロ汽蒸を機土機今

制限後交通状態調査を斷續的に行ひ若し成績良好ならざる時は尙進んで改良策を施すべき方針に有之候右の區間は幅員十二間を有するにも拘らず僅々二哩餘の間に於て約九十八件(一哩當四十九件)てふ事故を算し居候 今南北線を見るに同線は八間幅なるに一哩當僅かに十八件を算するに過ぎず候 之に依て見るも通行制限の必要なるは首肯かれ可申と存候而して右の如く制限を受けたる緩行車馬は南行は八百屋町筋を北濱二丁目より板屋橋新大和橋磐船橋を経て戒署東横に出でしめ北行は惠美壽町より日本橋筋一町西の筋を道頓堀朝日座東横手を経て相生橋に出で宗右衛門町を東へ舊難波橋筋を一直線に北濱二丁目に出でしむるものに有之候然るに右兩道路は何れも三間幅の爲め斯の如く南北專行を限定せるものにして島の内署管内は遊廓並に雜沓の場所尠からず船場署管内には商家櫛比せる等隨分取締上困難を來す事多かるべき見込なるを以て各所轄署と協力整理方に關し充分の研究をなすべき筈に有之候 尙渡邊橋交叉點の道路標示器設置以來事故殆ど無くなり候様の好成绩につき長堀橋、本町二丁目、大正橋

四ツ橋、惠美須町等にも設置致候(大阪、さかい生) 此縦貫道路成ら 臺灣新竹管内に於ける縦貫 道路開鑿工事の總延長は三十 二里に有之其内新竹郡下にては市街地より北側即ち 中學校より頭前溪左岸に至る一千五百間及南門外よ

り香山溪右岸に至る二千八百八十間は各派出所管區に 分ちて擔當し州土木課よりは野上技手監督の爲め出 場各地警察官と協力を急ぎ居候 前記の部分竣成 後直ちに樹林頭 埔頂鹿場等の派出所管内の工事に 着手可致筈に相成居候 先般梅谷知事、太田警務部 長、市川土木課長等一行視察の爲め來場の際は保正 以下保甲民等非常の歓迎を以て之を迎へ工事進行上 多大の便宜を得申候 如斯は各府縣に於ては其例に 乏しからざるべきも殖民地に於ては殊に其必要なる を感じ候につき何かの御參考にもと存じ御一報申上 度如斯御座候 (炎天下にて黒ンボー生)

箱根舊道の修築 遊覽客の誘引策

拜啓設備完備の點に於て日本 一を誇る箱根温泉も宿泊料不 廉なる爲め近時他へ浴を奪はる、傾向有之殊に今 秋より箱根三島國道開通せば只其の明眉なる風光を

及其左手となる見張所、蘆之湖の舟遊、箱根本陣の 舊記録等は最も參考となるべく相摸伊豆の國境には 親子知らずの地藏(子は己れの親父なるを知らず、 親また我愛子たるを知らず殺生す)あり、尙進めば 舊幕の交通史に特記すべき接待茶屋有之候(接待茶 屋は江戸商人與兵衛有隣なるもの冬期三ヶ月間炙火 粥等を人馬の難澁せるものに無料にて提供せし所に 候)此茶屋より數丁強飯坂に至る右側新田に狹彦尊 の後胤豆州の太守、天史長運(一柳子爵の祖先)天 正十八庚三月二十九日戦死の碑あり、それより尙數 丁にして胸突坂の難所あり、一夫よく千兵に衝るべ かりし舊時想像に難からず候 更に道を返せば弘法 大師作と言傳ふる一丈餘の石佛右に、多田契仲の賣 塔左に、尙は坂を上れば曾我兄弟及とら碑あり、芦 の湯を過ぎて本道路より遙かに江の島を望むの高所 鷹の巢の突端は双子の見晴しと稱し昔豊公小田原を 攻めんが爲兵を進めたる當時の策源地にして其附近 に恩人碑あり古人が恩義人情に教かりしを知るべく 峠茶屋より小涌谷宮ノ下、堂ヶ島等諸温泉へ一浴し つ、塔の澤の幽邃を探り、また登山電車により強羅

見つ、オンリバスし去るもの多かるべきは必然の 勢なるべきを以て先般來協議の結果、箱根舊道三枚 橋より元箱根に至る山道三里を修築し且つ其沿道に ある名所舊跡を修理して婦人小兒にも觀光自由なる ものを擧ぐれば、明治大帝御東行の際御喫茶の跡 親鸞聖人の遺跡、早雲寺、曾我の五郎十郎が仇討を 誓ひたる矢立石、弘法大師の藥石、豊太閤一夜道へ の抜道さては貞女の鑑初花が夫覺勝五郎の病氣平癒 と仇討とを箱根權現へ祈願し三七廿一日の間斷食し て水垢離込たる初花瀧及勝五郎が仇討本懐を遂げた る記念の太刀竝に初花の懐劍を埋め仇屍供養の爲め 建立したる初花寺、浪花節によりて津々浦々に至る まで人口に膾炙する忠臣藏の神崎與五郎が憩ひたる 甘酒茶屋(今尙細々ながら美味き甘酒を作り浴客或 は遊覽客の求めに應じつゝあり)其他屋敷跡、女こ ろばし坂男ほろび石、湯本そうめん茶屋、畑宿(雀 の卵鶏の卵ちやぼの卵)卵茶屋、須雲川の三文茶屋 等にして四五日滞留せば新國道より三丁餘なる箱根 權現にも參詣するを得べく離宮を右に見て舊關所跡

高原の妙へなる眺めを賞し、徒歩坂を下れば宮城野 の蕎麥あり立寄りて北條小田原が如何に大食なりし かを偲ぶも面白かるべく、満腹とならば碓氷峠(日

移動式自動積載機



砂利・砂・碎石等を瓦斯機關又は電動機等によりて一哩の道路に要する運搬量を二百餘時間にて積載し得べし

本武尊)小野原(橋姫)の舊趾を探り引返して白糸 の瀧にも廻りまた笛吹石(新羅三郎)にも登るべく 尙幾多遊覽の箇所尠なからざれば遊覽者の爲め興趣

に富む道路を修築し數日間に十年永壽の楽しみを得られ候様劃策致居へば何卒倍舊の御指導願上度右計畫成るの曉は長足の發展振りを示す事と今より期待致居候謹言 (足柄山にて：金時の一孫)

佐賀の道路デー
毎月十一日奉仕

今春紀元節以來毎月十一日を道路デーと定め各郡役所警察署町村吏在郷軍人團等にては隔月半數宛出動致し道路修繕に従事致居候 而してこは皆社會奉仕の意味にて一厘一毫だも報酬を受くるものに無之杵島郡の如きは穀物検査員郡農會關係者等最も熱心に肉働致居候呼子警察署職員中非番のものは一週間毎に街路の整理及掃除の模範を垂れ居り爲めに管内の交通上實に見るべき效果を示し候又武雄女學校生徒は通學道路の出入及危險物の整理等に毎週一時間餘を割き候處附近の道路は以前より一尺五六寸幅廣く使へる事と相成り候のみならず將來の賢母たる一素質を感知せしめ得たる效果は永久國家の利益なりと存じ寸緒御報申上候勿々敬具 (佐賀にて：鍋島拜)

土浦阿見間新設道路工事金進捗

前路本縣下土浦阿見間新設道路工事は頗る順調にして目下

樹葉を自化し加ふるに煤煙また飛來し爲めに衰弱甚しく中には枯死するもの往々有之本市土木課に於ては之が保護回復に種々なる手段を施したるも到底見込みなきを以てプラタナス樹と植更る事に致し目下樹苗の購入其他の準備に忙殺致居候 今回は兩側歩道に五間宛の間隔にて植栽し從來の銀杏は公園内に運び靜かに培養致し勢付くを待て新築學校へ移植の事に取極め申候勿々 (横濱：プラタナス生)

模範新國道は東京横濱間廿二分

東京神奈川兩府縣に於て六郷川(玉川の下流)を境とし大正九年六月より一號線新國道の模範的工事中に有之候處東京府側に於ては品川字北馬場より紅葉を以て有名なる海晏寺門前に至る間は夙に完成し目下は同寺前より江戸時代の俠兒播隨院長兵衛と梟首と剽盜とにより演劇及び講談等の種材たる鈴ヶ森に至る間の工事最中に御座候暗渠等の如きは凡て最新式の理想的に出来上り候 而して路面の中央二十二尺は瀝青混凝土の自動車専用道路とし其の左右各十三尺宛は瀝青碎石道として之を車馬道とし其兩側十二尺宛は歩道にしてコンクリートブロック式とし今年中竣成

七八分通りまで進捗致し居候面して櫻川架橋工事も野尻技手主任として指揮監督の下に早や竣成に向ひ申候路盤等は夙に竣工につき目下第一回の砂利を撒きスチームローラーにて壓整運轉に取かゝり居候されば第二回第三回の終了頃までには橋梁築堤等も完成可致當局は勿論地方民に至る迄開通の速かならん事を切望いたし居候其の内一應御視察被下度奉待候

百七萬圓を投じ 本所深川の盛土

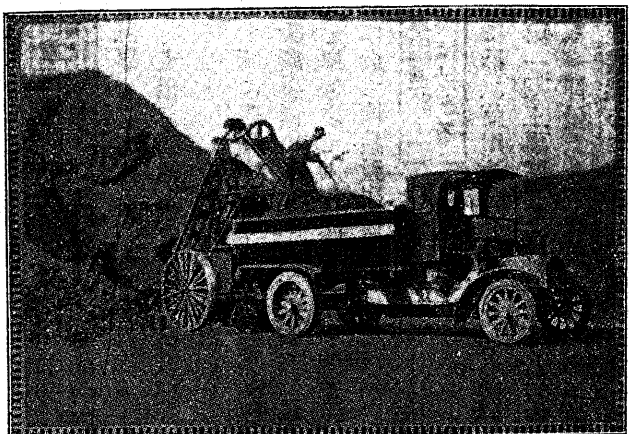
東京市内とは申しながら本所及深川の兩區は低地なる爲め霖雨期に於ては必ず出水に惱まされ殊に其の満潮時に於ては戦々競々たる有様につき東京市に於ては本年度以降三ヶ年繼續事業として總額百七萬圓を以て盛土工事をなすことと相成候右竣成の上は從來の如く出水毎に電車の運轉不能等を見るが見るが如き事は無之かるべく兩區民は大いに歡び居候再拜
五月十二日 (深川 米倉安心生)

横濱十五間道路の街路樹を植替

横濱驛前より櫻木町驛前に至る十五間道路の並木は大正七年中道路の開通と同時に其の兩側に銀杏樹四百八本を植へ附けたるが同所は交通最も頻繁にして砂塵は

の筈に御座候街路樹としては鈴懸樹又はアカシヤ樹を植へる事と相成居候 又神奈川縣側に於ては生麥

砕石運搬車と積載機



砂利運搬自動車に積載の積載機の後方約三十五立碼の積載力あり

事件の碑前より川崎町に向つて大半竣工致し候へば明年度中には品川横濱間の全通を見るに至るべく茲

に初めて我國模範的國道は實現し快速自動車を以てする時は僅々二十分餘にて達するを得べく省線特別急行列車より遙かに駿敏を誇るを得るは二十個月の後に迫り我國交通史上の新レコードなりと存候

五月十二日 (六郷川にて 瞬馳電光生)

大火はポンプの走れぬ道路のへ

近時東京市外角筈、瀧之川、下大崎、淀橋、南品川等に大火類々として起り慘死者をさへ出したるが今其の原因を調査するに其大部分は路幅狹猛且つ軟弱なる爲め消防自動車の自由活動を阻止するが爲めにして此等は道路の不完全よりして生命及び財産を直接奪ひ去るものなるが附近住民及交通者の如きは教時間の交通遮斷其他の傍杖に逢遇し爲めに間接の損害を蒙り迷惑尠からず候 元來警視廳消防隊の區域外出動應援は限定さる居り候ひしも大正十年より此制限は撤去され現在にては何地たりとも應援自由と相成候へども何分郡部に入りては道路狹弱にして到るを得ず見すく大火たらしむるに至るものに御座候また水の用意なきが爲め失火を直ちに防止する克はず遂に阿修羅地獄を現出するに至るものに候へば此全文

を御掲載被下社會一般人をして道路の改善は唯人畜及車馬の往來を安慰せんとするもののみならず事を得心せしめられ候様奉願候(東京市外憂民生報)

吳廣間軍用道路收用法に依らず

六年の久しきに互り問題たりし吳廣間道路は内務省及海軍省に於て軍事上必要道路と認められ國庫より經費の三分の二を支出し残る三分の一を縣及吳、廣、阿賀の負擔することとなり總工費二百萬圓にて現在の路幅三間を十間に擴張するものに御座候鎮守府をはじめ縣は勿論廣吳兩市及び阿賀矢郡吉浦等參加盛大なる起工式を舉げ以て六年間の感情を祝盃に一洗すべく有志間に於て協議致居候(吳港にて 白波生報)

阿見軍用道路工事順調に捗どる

常盤線荒川沖より霞ヶ浦航空隊に通ぜしめんとする軍用道路は鐵道に沿ひ荒川沖驛を起點として飛行場端一軒屋に至る第一期工事區間は既に竣工し目下第二期工事區間たる一軒屋より飛行射撃場間の工事に着手準備中に御座候然るに本區間の延長は第一期區間の三分二餘に過ぎざれば田植前に開通の見込に御座候

(霞ヶ浦にて 青年飛行士)